

平成28年度第1回中央区自殺対策協議会 議事（要旨）

1 日時 平成28年7月27日（水） 午後7時～午後8時15分

2 場所 中央区保健所2階大会議室

3 出席者

【委員】

張賢徳(委員長)、岩重佳治、池田真人、宮崎舜賢、羽鳥賢三、埴佳生、阿部円、前田宥全、隈本英智、加藤正志、小野澤宏、井上悟
田中武、長嶋育夫、黒川眞、古田島幹雄、中橋猛、高橋和義

【事務局】

健康推進課長、予防係長、健康推進主査、他

(主な議題)

- 1 委員長・副委員長の選任
 - 2 中央区の自殺の実態について
 - 3 今年度の取組み
 - 4 その他
-

[議事の経過]

1 委員長・副委員長の選任

中央区自殺対策協議会設置要綱に基づき、張委員が委員長に選任された。その後、張委員長より井上委員が副委員長に指名された。

(張委員長より)

張委員長より協議会において、自殺予防に関する基本的事柄を共有するため、以下のとおり説明があった。

○2006年に自殺対策基本法が成立したが、「自殺は防ぐことができる」「自殺を考えている人はサインを出している」、この2つの基本認識は自殺予防の観点からとても大事である。

○自殺者のうち、圧倒的多数の人は、最後の段階では精神科で病気の診断がつく状態になっている。

○自殺の危険度が高いと判断したら、しかるべき機関へつなぐことを心がけ、声をかけた人が背負い込むのではなく、連携して解決していく姿勢が大切である。

2 中央区の自殺の実態について

事務局より中央区の自殺の実態についての報告があり、その後意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下のとおりである。

(事務局説明)

○平成27年度の自殺者総数は20人（男性11人、女性9人）であり、26年度の27人から減少した。自殺者数は国や東京都と同様、減少傾向にある。

○国や東京都では自殺者の男女比は大体2対1だが、区は男女差が少ない。年齢層は30歳代、40歳代の壮年層が多かった。

（委員からの意見）

○区では飛び降りが多いとのことだが、ホットスポット的な場所があるならば、自殺者を呼び込むので注意しなければいけない。

3 今年度の取組み

事務局より今年度の取組み等について報告があり、その後意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下のとおりである。

（事務局説明）

○ゲートキーパー養成講座を年2回から年3回に増やし、新たな試みとして、窓口等で区民の方と接する機会が多い区職員を対象に実施する。1回目は9月に一般区民の方を対象に、2回目は10月に区職員を対象に、3回目は3月に理美容関係者を対象に実施予定。

○薬剤師会との連携を強化するため、区内薬局に自殺予防ステッカーを配付する。店頭には貼付していただく予定である。

（委員からの意見）

○地域でゲートキーパーに適した職種・業種はあると思うので、区ならではの対象者を考えることはよいことである。

○複数の薬局に出入りしている方の把握が必要と考えるが、健康保険の事務所にチェックできないと断られた。これでは薬局がゲートキーパーの役割を果たすのは難しいと実感した。

4 その他

平成28年度第2回中央区自殺対策協議会は、平成29年2月15日開催されることが決定した。